

## 講座レポート 12月 4日(土) 12月11日(土) 開催

「与謝野晶子ってすごいね講座」

講師 太田 登さん  
与謝野晶子倶楽部会長



◆12月4日(土)

【鳳志ようが与謝野晶子になったワケ】

男姿をさせられ育てられた晶子の生い立ちから、夫となる与謝野鉄幹との出会いや情熱的な歌の数々、渡欧体験など、時にはユーモアを交えながらお話いただきました。

女性に参政権のなかった今から100年以上前に既に男女平等を訴え、「男女の性の区別はあっても、人としての価値は同等である」と声を上げ、12人の子どもを育てた晶子のバイタリティや行動力に皆さん驚いていました。



◆12月11日(土)

【晶子が作品に込めた思い】

晶子の著書である「みだれ髪」が、女性による最初の近代恋愛賛歌として当時大変話題になったお話や晶子らしい表現についても解説いただきました。

また、国家への批判とみなされ大バッシングを受けた「君死にたまふことなかれ」が生まれた経緯や、太田先生だからこそ、お話いただける晶子のエピソードも教えていただきました。

太田先生がお持ちくださった  
「みだれ髪」の復刻版と  
当センター保管の「青踏」



## 講座レポート 12月18日(土) 開催

子育てパパママ共同参画シリーズ 第1弾  
「おうちで始める“お金教育”  
～おこづかいもキャッシュレス?～」

講師 佐野 圭三さん  
キッズ・マネー・ステーション講師



お金を計画性なく使うのはダメですが、使うことを我慢して貯めさせれば良いという訳でもありません。まずは子どもにお金の管理の仕方から伝えましょう。

お金は以下の3つに分けて管理することが大切です。

- ・自由に使うお金
- ・人のために使うお金(プレゼントなど)
- ・いざという時のためのお金(貯金)

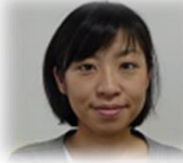
家庭内では上記の分類に仕分けるための話し合いを行いましょ。さらに月に1度は反省点やこれからのことについて家族で話し合うことがオススメ。日頃からお金についてのコミュニケーションを取ることも大切だそうです。



グループディスカッションで  
ご家庭での状況について  
話し合いました

## 講座レポート 12月12日(日) 開催

「パートナー同士で家事を  
協力し合っていますか?  
～ワンオペ家事よサヨウナラ!～」



講師 周藤 雅美さん  
育休後コンサルタント認定  
育休後アドバイザー

講師自身が、二人の子育て真っ最中で、家事は公務員の夫と「シェア」しているとのこと。参加者全員にワークショップ形式で、それぞれの家庭での現状を聞きながら、どうすれば改善できるかなどを書き出し、各家庭での取り組み方の違いについて知ることができました。



「家事は女性がするもの」ではなく、お互いに協力して「シェア」しながら取り組み、お互いに感謝の気持ちを持ち、言葉にして相手に伝える事が大切だと学びました。

## 講座レポート 1月15日(土) 開催

「紫式部の模索  
～わたしらしく生きる～」

講師 山本 淳子さん  
京都先端科学大学  
人文学部歴史文化学科 教授



紫式部が詠んだ最も有名な和歌に『めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に～』がありますが、一見恋愛の歌に聞こえるこの歌は幼馴染への手紙に添えた歌だったそうです。

姉を亡くした紫式部は、その幼馴染をとっても慕っていましたが互いに遠方へ引っ越すことになってしまいました。その引っ越し先で、彼女は夫と出会いますが、わずか3年で死別します。

失意の中、世を憂いてもがく人の心を綴り始めたのが、かの有名な源氏物語でした。

そして、その評判もあり藤原道長の妻からのすすめで一条天皇の妻・彰子に仕えることになったのです。

当初は職場にも周囲の女房にも馴染めなかった紫式部ですが、それは才女への偏見により冷遇されていたと知り、周囲の価値観と自分らしさに折り合いをつける生き方を選びます。

その努力する姿に主人である彰子も心を開き、信頼関係を結ぶことができました。その彰子を慕うがゆえに、清少納言を酷評したこともありました。

こうして紫式部は、歌を詠んで自己の小世界で生きる女性から、宮仕えをきっかけに世界を広げ自分を表現してこそが人生だと実感することができました。

最後に、「運命に翻弄されつつ模索し、価値観を広げることで自分らしく生きた紫式部の生涯は、現代の私たちを励ましているようです」と締めくくられました。

